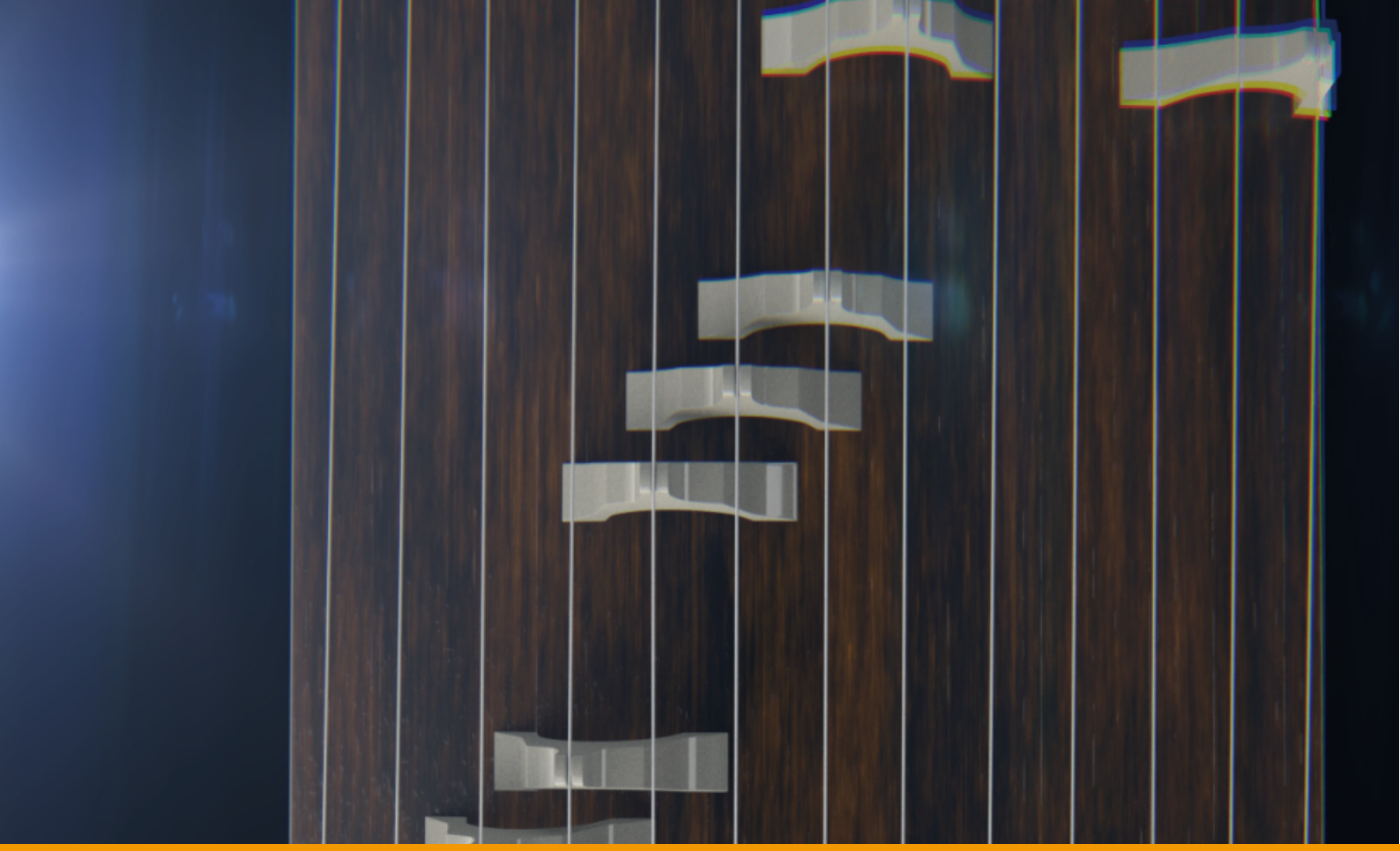


VS KOTO v2.0.7

USER GUIDE

by **VERSUS** AUDIO

VS KOTO USER GUIDE

■ユーザーガイド概要 ——— 03
■ＰＬＡＹ画面の見方 ——— 04
■キースイッチとメインメニューの機能 ——— 06
■ノブの機能 ——— 07
■ＶＯＬＴＯＮＥ画面 ——— 08
■ＳＥＴＴＩＮＧ画面 ——— 09
■クレジット、お問い合わせ ——— 12

■ユーザーガイド概要

VS KOTO USER GUIDE（以下「当ガイド」）は、Versus Audio 製品の「VS KOTO」についての説明を行います。対象となるお持ちの音源を起動してこのガイドをご覧頂くことをお薦めします。
（※搭載する機能の有無や数や範囲については音源およびバージョンによって異なる場合があります。また、当ガイドの記述はバージョンアップや修正などによって予告なく変更される場合があります。当ガイドは、動作内容を保障するものではありません。当ガイドでは、母体となる「NI KONTAKT」本体そのものの機能等に関する説明は致しません。）

当ガイドの対象製品：「VS KOTO」

■ＰＬＡＹ画面の見方

演奏範囲　　画像 1

画像 1 は、ＰＬＡＹ画面の表示例です。音源を起動すると、まず始めにＰＬＡＹ画面が表示されます。

①情報表示バー

操作されたキースイッチやノブに関する情報を表示します。

②ノブ

（※別項「■ノブの機能」参照）

③ヘルプスイッチ

音源の状態に合わせたヘルプを表示します。操作がわからない場合やキースイッチの確認などに使用します。

④パニックスイッチ

音源の動作が不安定なときにパニックスイッチを押すと、全ての音を停止し、発音や発音停止に関する内部変数を初期化します。

⑤メインメニュー

奏法指定など、音源をセッティングする上で最も重要な項目が並んでいます。
メインメニューにあるものは全て、キースイッチやＣＣ（コントロールチェンジ）での操作に対応しています。
メニューのすぐ左にある小さいバー（画像１**A**）の色は対応したキースイッチの色を表しています。灰色はキースイッチではなくＣＣで操作可能なものです。この小さいバーを押すと対応したキースイッチが黒色になり、キースイッチ等での操作を無効化します。もう一度押すと復帰します。小さいバーが明るい色のときはキースイッチが有効に、暗い色のときは無効になっています。キースイッチの位置確認として利用することも可能です。
（※メインメニューの機能については、別項「■キースイッチとメインメニューの機能」参照）

⑥画面変更スイッチ

ＰＬＡＹ画面やＶＯＬＴＯＮＥ画面やＳＥＴＴＩＮＧ画面に切り替えます。画像１はＰＬＡＹ画面が選択されている状態です。
（※ＳＥＴＴＩＮＧ画面については、別項「■ＳＥＴＴＩＮＧ画面」参照）
（※ＶＯＬＴＯＮＥ画面については、別項「■ＶＯＬＴＯＮＥ画面」参照）

⑦ベロシティ情報表示欄

現在の設定でのベロシティ情報を表示します。ベロシティにより音量を指定する奏法では「Velocity to Volume」と表示されます。

⑧奏法の情報表示欄

・サステイン（SUS p,mf,f）：最も基本的な方法で鳴らしたメインの音
・ピチカート（PIZZICATO）：左手の指で弾いた音
・掬い爪（SUKUIDUME）：奥から手前に救うように爪の裏で鳴らした音
・散らし爪（CHIRASHIDUME）：擦るように爪で鳴らした音
・裏連（URAREN）：手前から奥に爪の裏で鳴らした音
・ブラッシングノイズ（BRUSH）：左手でミュートしながら爪で弾いた音
・ピックノイズ（PICKNOISE）：爪を弦に当てる音
ピアノ：（ｐ）メッゾフォルテ：（ｍｆ）フォルテ：（ｆ）
青色の鍵盤が演奏範囲です。範囲内のシアン色の鍵盤は高音域に設定している音程を表示しているものです。シアン色の鍵盤は箏の弦を模した鍵盤です。

■キースイッチとメインメニューの機能

①

画像 2

画像 2 は、PLAY 画面でヘルプを表示したものです。

ヘルプ上段①奏法選択【Play:●●】（C-2 ～ D-2）

奏法を選択します。【Play:Multi,SUS,PIZZ,SUKUI,CHIRASHI,URAREN,BRUSH,PICK】

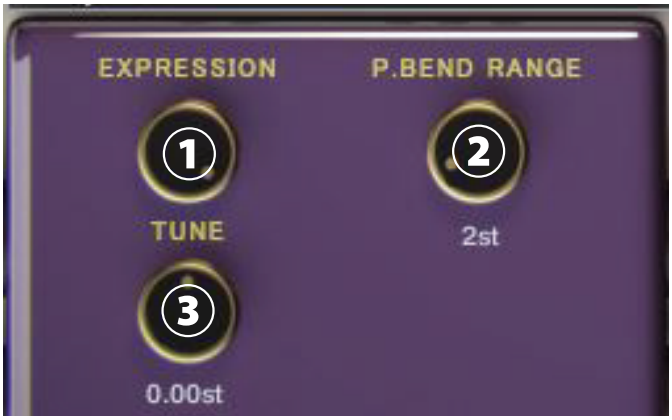
【Play:Multi】では、ベロシティで奏法を指定します。【Play:Multi】ではベロシティでの単音ごとのボリューム指定ができません。SETTING 画面の【Multi Vol:CC#●】で指定したＣＣでボリュームを指定します。

ベロシティで音量を指定したい場合は【Play:SUS】などの各奏法を指定してください。

ヘルプ上段②リリース（G0）

演奏範囲の音が鳴っているときに、リリースキーを押すと音を停止します。

■ノブの機能



画像３

画像３はＰｌａｙ画面に表示されるものです。

①ノブ【EXPRESSION】

エクスプレッションを操作して音量を変化させて音に抑揚をつけます。

②ノブ【P.BEND RANGE】

ピッチベンド操作では、全ての音をベンドします。【P.BEND RANGE】では、そのピッチベンドのレンジを指定します。

③ノブ【TUNE】

音程のある音のチューニングを調整します。（-12.00st ～ +12.00st）

■ＶＯＬＴＯＮＥ画面

画像４は、ＶＯＬＴＯＮＥ画面を表示したものです。

画像４

画像４左下の「VOL,TONE」ボタンを押すと、ＶＯＬＴＯＮＥ画面が表示されます。

①メニュー【各 MIC Stereo/Mono L/Mono R/Mono C】

各マイクのステレオ・モノを指定します。（Mono Ｌ：左 CH、Ｒ：右 CH、Ｃ：左 CH+ 右 CH)

②スイッチ【各 MIC PHASE】

各マイクの位相を反転します。「Normal」は通常の位相で「Reverse」は反転位相です。

③ノブ【各 MIC VOL】 ④ノブ【各 MIC WIDTH】

各マイクのボリューム、ステレオ幅を調整します。

⑤メニュー【カーブ選択（Linear/Light)】

ベロシティに対するボリューム変化のカーブを変更します。Linear はベロシティに対して直線的に音量が変化しますが、Light は軽いタッチでも大きい音量になります。

⑥ノブ【VEL-VOL】

ベロシティに対するボリューム変化量を調整します。ホイッスルなどボリュームの調整がほとんどできない楽器では初期設定をゼロにしています。

⑦ノブ【RELEASE】 ⑧ノブ【RELEASE】

アタックやリリースの長さを調整します。長いリリースにするときにはリリースノイズをオフにすることをお勧めします。

⑨ノブ【MASTER VOL】 ⑩ノブ【MASTER TONE】

マスターボリューム、マスタートーンを調整します。

■ＳＥＴＴＩＮＧ画面

画像５は、ＳＥＴＴＩＮＧ画面を表示したものです。　　画像５

画像５左下の「SETTING」ボタンを押すと、ＳＥＴＴＩＮＧ画面が表示されます。
メニュー内の「*」が付いている値は初期設定値であることを意味しています。

①【BendRange:●】

ＣＣで行うベンドのレンジを指定します。

②【BendVol:●dB】

ＣＣで行うベンドのボリュームの減衰量を指定します。

③【BendCurve:Linear,Quadratic】

ＣＣで行うベンドのベンドカーブを指定します。Linear：リニア、Quadratic：２次曲線カーブ

④【Humanizer(dB)】

ランダムに選択された音量（ｄＢ）を全ての音に適用します。例えば【Humanizer(dB):1dB】を選択した場合は、０～１ｄＢの間のランダムな音量変化を全ての音に与えます。

⑤【CyanKey:White,White&Black】

高音側の箏の弦を模したシアン鍵盤のキー配置を変更します。White で白鍵盤のみ、White&Black で白黒すべての鍵盤に配置します。

⑥【SampleCycle:2-A,2-B,4】（※収録サイクル数が２以下の場合は表示のみとなります。）

【SampleCycle:2-A】はサンプルのサイクル数を２以下に制限します。【SampleCycle:2-B】も同様にサイクル数を２以下に制限しますが、サイクル４のサンプルを使用して、【SampleCycle:2-A】とは異なる音色を選択します。【SampleCycle:2-A】と【SampleCycle:2-B】は主にダブルトラックとして使用します。

⑦【LoadMic:Near/Near+Hole/Hole】（※収録マイクが１種類の場合は表示のみとなります。）

マイクを制限してメモリの使用量を抑えます。【LoadMic】で指定したマイクの音色をロードし、それ以外の音色をパージします。

⑧【Near/HoleCH】

マイク毎にアウトプットチャンネルを指定します。マイク毎にパラアウトする場合に使用します。音源起動前に、ＫＯＮＴＡＫＴ側でアウトプットチャンネルの設定を行っておくことが条件となります。設定が完了していれば、音源起動時にメニュー内にチャンネルが追加されます。【NearCH:-】にすると、デフォルトの設定に戻ります。アウトプットチャンネルを変更すると、コンプレッサーやコンボリューションリバーブなどのインサートエフェクトの前段の出力が指定したチャンネルに出力されます。
音源ごとにパラアウトする場合は音源自体のアウトプットチャンネルを変更してください。

【各弦チューニング】

高音側の箏の弦を模したシアン鍵盤のチューニング（調）を変更できます。
【TuningPreset:●●】でチューニングのプリセットを選択することもできます。

マイクロチューニング（音律調整機能）

各音程をセント単位で調整できる機能です。右のテーブルをドラッグして値を調整します。
【Key:C~B】を選択することで調整が適用されます。【Key:Equal】を選択すると平均律になります。
【-LoadPreset-】メニューからプリセットを選択でき、【Save >>> User12345】で現在の値を保存します。
ユーザープリセットデータは各音源の Library フォルダ内の Data フォルダに保存ます。

①【Bend】

ベンドをかけるコントロールチェンジを指定します。

②【Expression】

PLAY 画面の【EXPRESSION】ノブを操作するコントロールチェンジを指定します。

③【P.BendRange】

PLAY 画面の【P.BEND RANGE】ノブを操作するコントロールチェンジを指定します。

④【Tune】

PLAY 画面の【TUNE】ノブを操作するコントロールチェンジを指定します。

⑤【MasterVol】

VOLTONE 画面【MASTER】の【VOL】ノブを操作するコントロールチェンジを指定します。

⑥【MasterTone】

VOLTONE 画面【MASTER】の【TONE】ノブを操作するコントロールチェンジを指定します。

⑦【Hold】

メインメニュー【Hold】を操作するコントロールチェンジを指定します。

⑧【Multi Vol】

【Play:Multi】ではベロシティで奏法を指定するため、ベロシティでの音量調整ができません。

【Multi Vol】で指定したコントロールチェンジの値で音量調整します。

■クレジット、お問い合わせについて

アートワーク（パッケージやＧＵＩの３D/２ＤＣＧ）、プレーヤー、レコーディング、スクリプト、エンジニア：渡部浩成

※「KONTAKT」は Native Instruments 社の製品です。

製品の不具合等のお問い合わせは Versus Audio サイトの「SUPPORT」>「お問い合わせ」内のメールフォームから受け付けております。

また、デモソング [※] やご使用頂いた感想などもお待ちしております、ユーザーの皆様より頂きましたご意見ご感想等の各種情報につきましては、今後の運営の参考とさせて頂きます。

[※：当メールフォームにはファイル送信機能がついておりません。必須ではありませんが該当する音源のみのトラックもありますと幸いです。]

Versus Audio

URL:　https://versusaudio.com/

mail:　info@versusaudio.com